

1 龍興寺(龍興寺ヶ池と龍神)

龍興寺は曹洞宗のお寺で、天文2年(1533)織田家に仕えていた御器所城主佐久間盛次が、一族の菩提寺として創建しました。昭和20年の空襲で焼失しましたが、昭和53年実業家藤山雷太の旧邸(東京都)を移築して本堂(県指定文化財)としました。本堂前は、入り組んだ形の池を中心にした日本庭園が広がり、本堂とも調和した美しい空間になっています。

龍興寺の南側には、大正の初め頃まで龍興寺ヶ池(雨池)という大きな池がありました。この池には、龍が生息しているとい伝えられていたもので、大正5年(1916)頃、土地造成のための排水後、この池の守り神をまつる八大龍王社がつくられています。



2 どんぐり広場の屋根神様

どんぐり広場の入口に、鉄骨で2mぐらゐの台座の上に神社がまつられています。平成12年に改築された社殿ですが、もともとは近くの民家の軒下に造られていた屋根神様でした。

社殿には、向かって右側から、尾尾神社・天照皇大神宮(伊勢神宮)・御器所八幡宮の神様がまつられています。以前は郡道沿いにもいくつか屋根神様がまつられていましたが、現在は、その様子を見ることはできません。



3 御所屋敷跡(豊臣秀吉の生誕地?)

秀吉の母、大政所の在所とい伝えるところで、敷地内には「御所屋敷跡」と彫られた石柱が立っており、小さな祠があります。閑静な住宅街の中にあり、民家に隣接したわずかな空き地にあるためか、一見見落としそうになりますが、名古屋市教育局の立札「伝豊臣秀吉母宅跡」も立っているので何かこの場所が確認できます。



4 御器所大根(朝日屋)

御器所台地は良質な大根の産地でした。江戸時代には、沢庵漬けにして城下へ売り出し、「尾張名所図会」に紹介されるほど著名でした。明治32年(1899)、漬物問屋の稲田家が福神漬・ナス辛子漬を創始しました。明治30年から大正期まで御器所の漬物は、10数軒の卸問屋と多数の引き売り行商人で、販路も全国に広がる黄金時代を迎えました。「朝日屋」も古くから漬物商を営むその一つです。



5 恵林寺

真宗大谷派のお寺。この地に荒山説教所を開設、その後昭和27年に恵林寺となり、平成13年に改築されました。住職は各地の寺院で法話等布教活動をしているほか、名古屋刊務所の教諭師として活躍されています。本堂の階段の最上部が鐘楼となっていて、梵鐘はその天井近くに吊るされており、鐘を突くときにはスイッチを押して、梵鐘を下におろし、窓を開けて行、といった工夫が凝らされています。



6 郡道

昭和区の西部を南北に縦断し、南端は東海道の呼統(南区)、北端は飯田街道の古井坂(千種区)に通じている道です。完成は明治42年(1909)で、大正12年(1923)の「愛知郡誌」によれば当時郡内に49本の郡道が通っていましたが、この道だけが、今でも地域の人々から「郡道」と呼ばれて親しまれています。

各地の商店街が寂れていくなか、方には美しくイルミネーションが灯り新しさと懐かしさが入り交じります。



7 ノーベル物理学賞受賞者益川博士記念碑

小林益川理論で2008年ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英博士の記念碑です。向陽高校を昭和33年に卒業しました。記念碑には同氏の手形と「知」の揮毫が記されています。



8 桜山中学校のお地藏さん

昔この地に広見池と呼ばれた大きな溜池があって、その傍らで住民の安全を見守って来たとい伝わるお地藏さんは、桜山中学校のグラウンド北西の道路沿いにまつられています。知らない人は見過ごしてしまいうようなお地藏さんですが、近所の人が毎日のようにお詣りされているようで、きれいな花が供えられており、今も大切にまつられています。



9 信州屋

滝子通から北へ入ると、閑静な住宅街の中にあつてどこかぬくもりを感じるお店があります。信州屋は長野県の有機農産物やそば、加工品などを扱っています。店のご主人の祖父父母がお住まいだったというこの建物は、大正期の建築で、名古屋市の「登録地域建造物資産」として登録されています。



10 ボンボンセンター

桜山交差点の北にいくつかの飲食店が集まる小路があります。この小路はボンボンセンターといい、昭和35年に建設されました。夕暮れ時ともなると、昭和のレトロな横丁の雰囲気を楽しむ人々ににぎわいます。



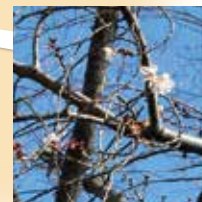
11 木祖村アンテナショップ源気屋

木曽川の最上流に位置し、山々に囲まれた木曽川源流の里、木祖村のアンテナショップです。ヒノキの香り漂う店内には、はちみつや木工製品、季節によりすき漬けなど村特産品が販売されています。中でも人気の「お六櫛」はミネバリというとても固い木を材料に用い、約10センチの櫛に100本もの歯が挽かれているものもあり、職人の技術に驚かされます。お店の奥では観光や移住などの情報提供も行われています。



12 桜山の桜

桜山交差点のミニ街園には3本の桜があります。北西角の2本は、群馬県鬼岩村桜山公園の天然記念物「冬桜」の苗木を貰い受けたものと、岐阜県の根尾谷淡墨楼の孫木です。いずれもまだ若木ですが、冬から春には可憐な花を咲かせます。そして、南東角にある1本はソメイヨシノです。また、ソメイヨシノが散った後には交差点を中心に南北の歩道にサトザクラ(通称八重桜)の街路樹が咲きます。



13 藤成神社

塩付通5丁目交差点の南側。こもりとした木立の中に建つ藤成神社は、応永元年(1394)、昭和区荒田町に創建。文政4年(1821)、現在の地に移転しました。藤成新田の氏神様で、主神は天照大神です。本殿は戦禍で焼失し、戦後に再建されたもの。境内の2本のクスノキは市の保存樹です。藤成新田は尾張藩重臣の成瀬隼人正により開発された農地で、今も塩付通から山崎川まで続く平坦な土地が歴史を伝えてくれます。



19 御器所交差点のモニュメント

交差点の北西側には、御器所が古くから土器と関わりのある街であることから、「土」をテーマとするモニュメントが設置され、焼き物を用いて、街と人とのあたたかな関係が表現されています。また南東側には、「天・地・風・水・火」をテーマとするモニュメントが設置されており、「街に隠れ見えない壮大な自然」や「自然と共存」する姿勢が表され、まちの風景に溶け込んでいます。そして、モニュメントの足元には、「ゆめ緑道ごきそ」が管理する花や芝が植えられており、地域の方々の協力により、美しいまちの景観が保たれています。



18 名古屋聖マタイ教会

主教座聖堂として昭和25年に設立され、現在の建物は昭和35年にアッシジ(イタリア)の聖フランシスコ大聖堂を模して建てられました。150人収容の大聖堂の祭壇の両側には、4人の福音記者(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ)を表す円形のステンドグラスがあります。信徒の礼拝の場としてだけでなく、結婚式やコンサートなどにも使われています。



17 石仏弘法大師

善昌寺境内地の北側に、石仏弘法堂慈雲閣があります。安置されている弘法大師(空海)像は、唐国留学前の青年大師像のようです。弘法堂縁起の中に「善昌寺大悲閣の裏にありき(境内地)然りとはいえどもその由来を知る者なし、或いはいわく古昔にはこの地大師の霊場なりと、何時か炎上煙滅して遺蹟無し(以下略)」と記されています。この文は明和4年(1767)のものと言われています。弘法大師の左側には、不動明王像も安置されています。



16 善昌寺

曹洞宗のお寺で、ご本尊は釈迦如来です。ここは、もともと石仏観音が安置されている庵を、元和元年(1615)亀甲和尚が慈雲庵と名付けて住んでいました。その後、この地を隠居地としている服部総一郎善昌の名をとって、慈雲山善昌寺となりました。石仏観音堂には、5尺余の石像の千手観音が秘仏として安置され、実体を見たものはいないといわれています。境内には、昔話にも登場する「目開き地藏」があります。眼病治癒のお地藏様として信仰を集めています。石仏観音とともに「石仏村」の由来となったお地藏様です。



15 白山社

貞享年間(1684~87)に服部総一郎善昌が加賀国白山の神「菊理姫命」を勧請した神社です。社殿は、前方後円墳の後円部に造営されたため、小高い丘になっています。境内にはむかし若者の力競べに使われた「カ石」が残っており、保存樹の楠木、イチヨウなど大木もあり、歴史の深さを物語っています。



14 晃照寺

真宗大谷派の寺院。大正末期、現在地に間法道場として建立されました。ご本尊は阿弥陀如来です。昭和20年3月の空襲によって焼失した松栄小学校の学習の場として使用された時期もあったようです。また、「『お斎』(法事や法要のあとの食事会)に鳴る喚鐘を聴いて集まってきた子どもたちの中に、三日分も食べる子どもがいた。」というエピソードもあったようです。

